

仙台市内にある政宗ゆかりの地

今も仙台市内に残る伊達政宗にゆかりのある寺社に足を運んで、往時にひたってみてはいかがでしょうか？

大崎八幡宮本殿(国宝)



【青葉区八幡】
石の間や拝殿とともに慶長12年(1607)に創建される。極彩色の彫刻や金具で飾られた、絢爛豪華な桃山建築の特色を示している。

北山五山と輪王寺



【青葉区北山ほか】
北山一帯に点在し、伊達家ゆかりの東昌寺、覚範寺、資福寺、光明寺、満勝寺(移転後は輪王寺が加わる)を「北山五山」と呼ぶ。写真は輪王寺山門。写真は輪王寺山門。

陸奥国分寺薬師堂(国重文)



【若林区木ノ下】
奈良時代に建てられた陸奥国分寺を、慶長12年(1607)に薬師堂として再興した。大崎八幡宮とともに仙台市内における桃山建築の代表的な建物。

瑞鳳殿



【青葉区霊屋下】
伊達政宗の死後、寛永14年(1637)に造営された廟所。二代藩主忠宗、三代藩主綱宗の廟所も隣接する。戦災で焼失したため戦後再建された。

伊達政宗に関する主なできごと

年号	西暦	年齢	伊達政宗に関する主なできごと
寛永十六	1639	16	忠宗が仙台城本丸の北に二の丸を造営し、若林城が廃城となる。
寛永十三	1636	13	江戸屋敷で死去し、経ヶ峯仙台寺に葬られる。
寛永五	1628	5	若林城が完成し、仙台城より移る。
寛永四	1627	4	幕府の許可を得て、若林城(仙台屋敷構)の造営を開始する。
寛永三	1626	3	外様大名では最高位の従三位権中納言となる。
元和元	1615	4	大坂夏の陣に参加する。豊臣氏が滅亡する。
慶長十五	1610	4	仙台城本丸の大広間が完成する。
慶長十四	1609	3	瑞巖寺松島町の本堂が完成する。
慶長十二	1607	1	大崎八幡宮・国分寺薬師堂(仙台寺)が完成する。
慶長八	1603	7	徳川家康が江戸に幕府を開く。
慶長六	1601	5	国分氏が築いた千代城の地に仙台城の築城を開始する。
文禄二	1593	7	朝鮮に渡り、蔚山城や晋州城攻めなどに参加する。(文禄の役)
慶長五	1600	4	徳川家康が政宗の失った領地を戻す書状を出す。(百万石のお墨付)
天正十九	1591	5	北目城(仙台寺)を拠点に上杉方の白石城(白石寺)を攻め落とす。最上氏救援のため、山形方面に出兵する。関ヶ原の戦いで東軍が勝利する。
天正十八	1590	4	秀吉に従い、小田原(神奈川)の北条氏攻めに加わる。
天正十七	1589	3	大崎・葛西一揆の鎮圧後、大崎・葛西地方(宮城県北部)と岩手県南部を与えられる代りに長井(山形県南部)、信夫・伊達安達(福島県北中部)、刈田(宮城県南部)の各郡を没収され、居城を米沢城から岩出山城(天崎)に移す。
天正十三	1585	9	摺上原の戦い(福島県猪苗代町)で蘆名氏を滅ぼし、黒川城(福島県会津若松市)に入る。
天正十二	1584	8	三春城(福島県三春町)主の田村清顕の娘愛姫と結婚する。
天正七	1579	3	輝宗が隠居し、家督を継ぐ。
永禄〇	1567	1	米沢城(山形県米沢市)に伊達輝宗の長男として生まれる。

※赤字は政宗が拠点とした城

語り始めた遺跡たちⅢ

政宗と二つの城

～仙台城と若林城～

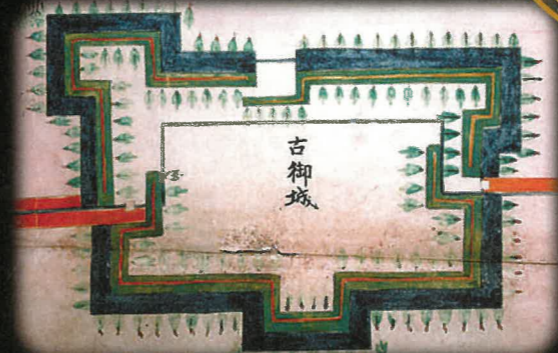


「仙台城下絵図」本丸部分 寛文年間(1664年頃) 宮城県図書館蔵



伊達政宗騎馬像

仙台城本丸跡遠景(北から)



「仙台城下絵図」若林城部分 天明～寛政年間(1786～1789年) 仙台市博物館蔵

若林城跡遠景(南から)

仙台市教育委員会

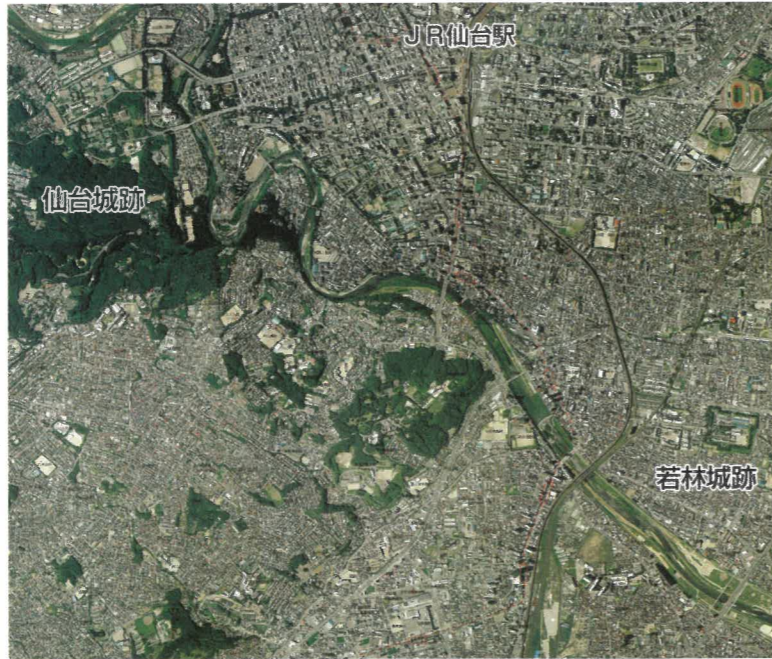


仙台城と若林城

発展する仙台の基礎を築いた伊達政宗が居城とした仙台城は、市民の誰もが知るところです。しかしその政宗が60歳を過ぎてからの晩年の居城として若林城を造り、移り住んだことを知る人は意外と少ないでしょう。

仙台城はその大きさのみならず、本丸や二の丸をはじめとした数多くの曲輪の配置、本丸を囲む高い石垣、そして本丸大広間を代表とする御殿建物など、日本の近世を代表する城の一つです。

若林城はその姿がこれまであまり知られていませんでしたが、最近の調査で、仙台城と共に重要な城であったことが明らかとなってきました。



仙台城と若林城の位置 株式会社システムカンパニー提供

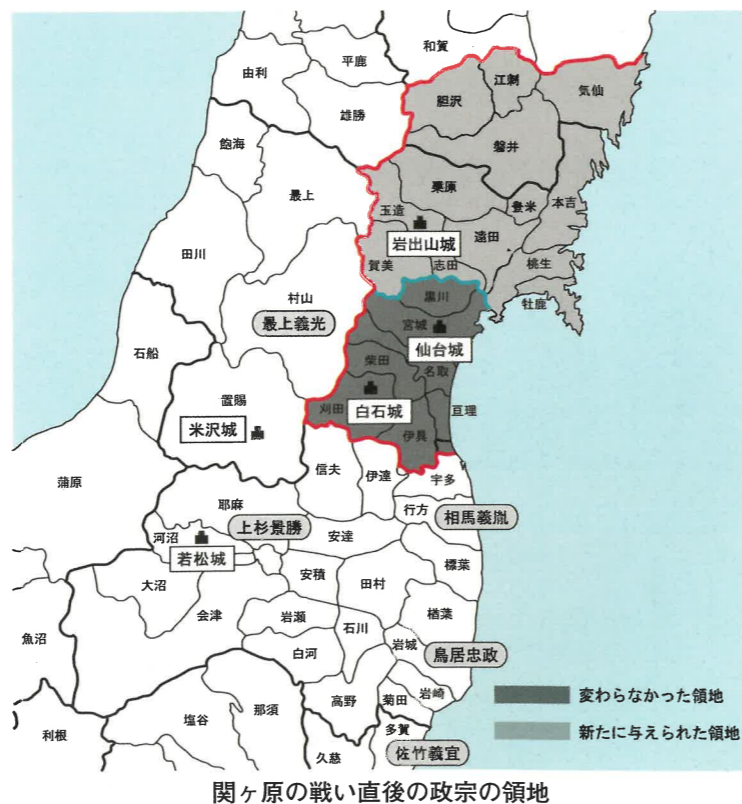


城はいつ・何の目的で造られた？

政宗の勢力が最大となったのは、米沢城を居城としていた天正17年（1589）に、摺上原の戦いで蘆名氏を滅ぼした直後です。しかしこの後、豊臣秀吉の命令で本領である米沢地方や福島県北部を没収され、代わりに宮城県北部と岩手県南部を与えられました。

慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いと同じ頃、政宗は上杉氏の白石城を攻め、宮城県南部を再び手に入れました。山城である仙台城を当時築城した理由のひとつには、このような上杉氏との緊張がまだ続いていたことがあげられます。

若林城は徳川の世も定まった寛永5年（1628）に、政宗個人の屋敷として造営したとされています。



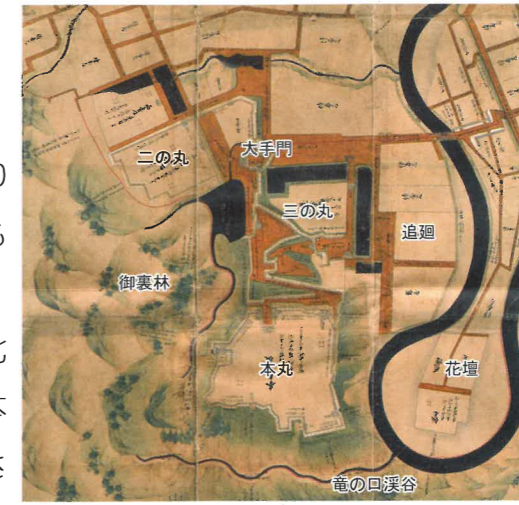
関ヶ原の戦い直後の政宗の領地



城の大きさと構造を比べる

仙台城は山城で、東西・南北とも約1,200mの大きさを誇り、本丸は山上に造られたものとしては全国でも最大規模です。

若林城は平城ですが、東西420m、南北350mもあり、土塁の内側の広さは仙台城本丸やのちに造られた二の丸とほぼ同じ大きさがあります。これは同じ平城である山形城や米沢城の本丸よりも大きいものです。



仙台城と若林城の大きさ比べ



若林城「仙台下絵図」(仙台市博物館蔵)

仙台城「奥州仙台城絵図」(斎藤報恩会所蔵)

●仙台城はこんな構造



仙台城本丸跡遠景（北から）

本丸は標高115～117mの丘陵上に位置します。南側は山間をぬぐう深さ約40mの竜の口溪谷、東側が広瀬川に落ちる約70mの断崖に守られた天然の要害です。西側には「御裏林」と呼ばれる山林が広がり、城の守りを固める3本の堀切（尾根を断ち切った空堀）があります。曲輪の外側には土塁や石垣が築かれ、本丸の正門にあたる詰門が北側に設けられました。

絵図によると北東角と南東角にそれぞれ櫓が建てられ、その間には木柵や塀などを巡らせました。内部には大広間をはじめとする御殿があったと考えられます。

●若林城はこんな構造

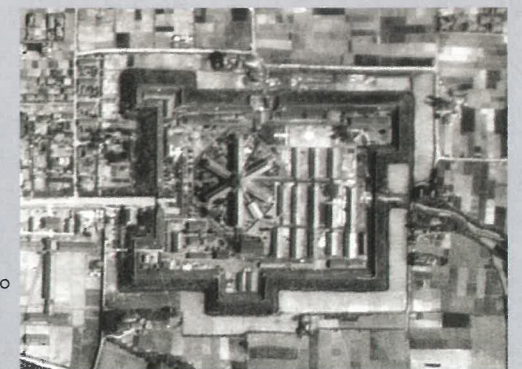
城は平地に造られ、東西に長い長方形を基本とした近世の城によくみられる整った形をしています。周囲は高さ約5mの土塁と幅約20mの堀で囲まれ、土塁の4か所に攻める敵に対する防御のための「張出し」が配置されています。



城南側の土塁と堀跡 (仙台市戦災復興記念館蔵)

出入口は西・北・東の3か所にあり、西側が大手口と推定されます。

記録では城の内部に池や築山を配置した庭園や、土塁上に矢倉があったとされています。また城はさらに外側にも堀や曲輪を配置し、現在の姿よりさらに大きかった可能性もあります。



城を上からみたところ (昭和20年 米軍撮影)



まさむねくん

政宗がくらしした御殿建物

城というとは普通は天守閣や櫓、そして高い石垣を思い浮かべますが、戦のない時代には、客をもてなし、時には家臣に対面することで権威を示す場所であった御殿が城の最も重要な施設だったといえます。絵図などによると、仙台城本丸には中心建物である

大広間をはじめ、様々な建物が立ち並んでいたことがわかっています。一方、若林城の建物については絵図が残されておらず、これまで全く謎でしたが、最近の発掘調査により仙台城大広間や若林城の御殿建物の姿が次第に明らかになってきました。

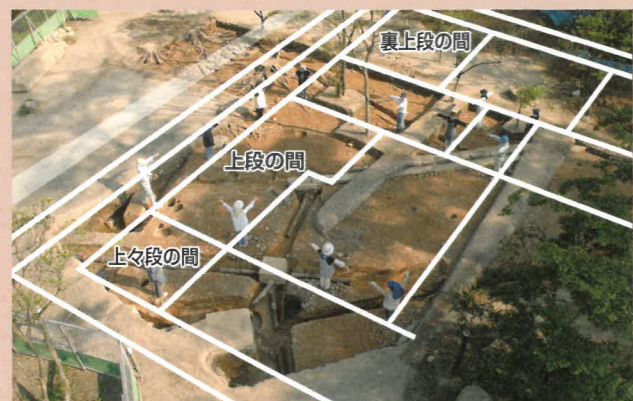


めごちや

● 今よみがえる 仙台城の本丸大広間

本丸大広間跡の調査では、建物の礎石跡や建物の軒下を巡る石敷きの雨落ち溝跡の発見により、東西幅33.5m、南北幅26.3mの規模であることや、建物の構造がわかってきました。また、調査成果と絵図を比較すると、「御本丸大広間地絵図」(斎藤報恩会所蔵)に描かれた柱の配置と発掘調査成果がほぼ一致することがわかりました。大広間跡からは菊唐草や牡丹などの文様が彫られた金銅金具(金メッキをした金具)という飾り金具が発見され、当時の華やかな大広間の姿が想像されます。

本丸大広間跡の調査では、建物の礎石跡や建物の軒下を巡る石敷きの雨落ち溝跡の発見により、東西幅33.5m、南北幅26.3mの



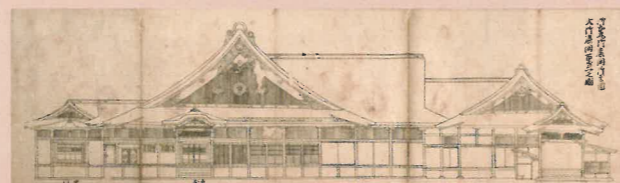
大広間跡北東部(北西から)



大広間跡南東部(東から)



本丸大広間跡遺構平面図と「御本丸大広間地絵図」の合成図



「仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図」(大広間部分)
(仙台市博物館所蔵)



飾り金具(菊唐草文)

● 大発見! 若林城の御殿建物群

これまでの調査では、10棟以上の建物跡を発見しました。そのうち6棟は形が長方形やL字形となる大型の建物で、全ての建物が計画的に配置されています。これらの建物群は城の最も重要な場所である表御殿とみられます。建物は政宗が暮らしした約8年間しか使用していないため、建替えや改修はほとんどされておらず、江戸時代初期の御殿建築の遺構が残る全国的にみても極めて貴重なものです。

これまでの調査では、10棟以上の建物跡を発見しました。そのうち6棟は形が長方形やL字形となる大型の建物で、全ての建物が計画的に配置されています。これらの建物群は城の最も重要な場所である表御殿とみられます。建物は政宗が暮らしした約8年間しか使用していないため、建替えや改修はほとんどされておらず、江戸時代初期の御殿建築の遺構が残る全国的にみても極めて貴重なものです。



① 1号建物跡



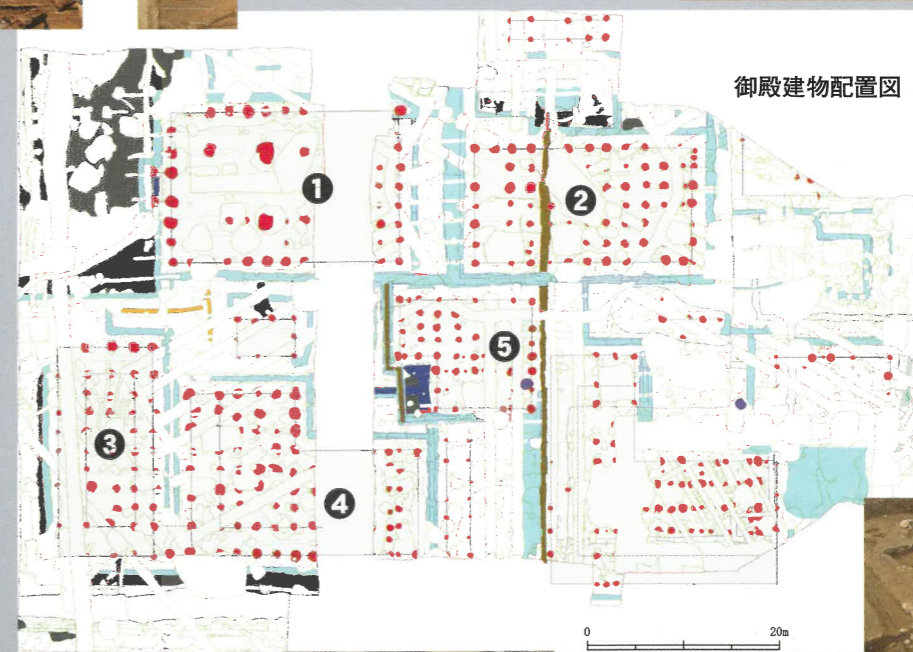
礎石跡
(柱をすえたところ)



② 6号建物跡



③ 3号建物跡



御殿建物配置図

石を組んだ
枡状の溝跡



④ 2号建物跡

雨落ち溝跡



⑤ 7号建物跡



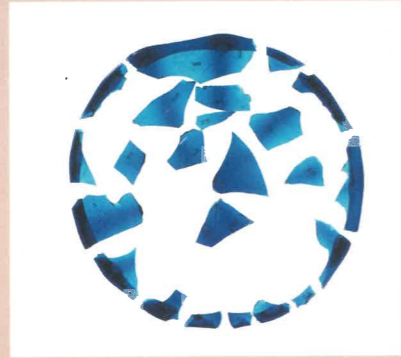
発掘品からみる城内での生活

● 仙台城での優雅なくらし

仙台城では場所によって出土品に違いがみられます。本丸大広間跡では、建物解体の際に捨てられたと考えられる金具や銅釘などが出土しています。本丸石垣の修復工事に伴う発掘調査では、本丸での儀式や調度として使用されたと考えられる中国産陶磁器やヨーロッパ産のガラス器などが見つかりました。また、三の丸は政宗の「下屋敷」が存在したと考えられ、発掘調査では高級な国産茶器や漆器が多数発見されました。場の使われ方に応じて、発見される出土品に違いがみられます。



中国産の磁器（金彩鳳凰文）



ヨーロッパ産のガラス器



美濃伊賀水指

● 出土品が少ない若林城

若林城は8年程度のわずかな期間しか使用されませんでした。また二の丸の造営により生活品のほとんどは二の丸などに持ち出されたと考えられることから、

陶磁器などの出土品が少ないのが特徴です。建物の移築に伴い、屋根に葺いていた瓦のほとんども建物と共に持ち出されたとみられますが、建物解体の際に割れたり、再利用しない瓦が建物の周りの池跡や溝跡の中に多く捨てられていました。



軒丸瓦

菊丸瓦

滴水瓦

棟止瓦

御殿の屋根を飾った瓦



瓦が捨てられた池跡

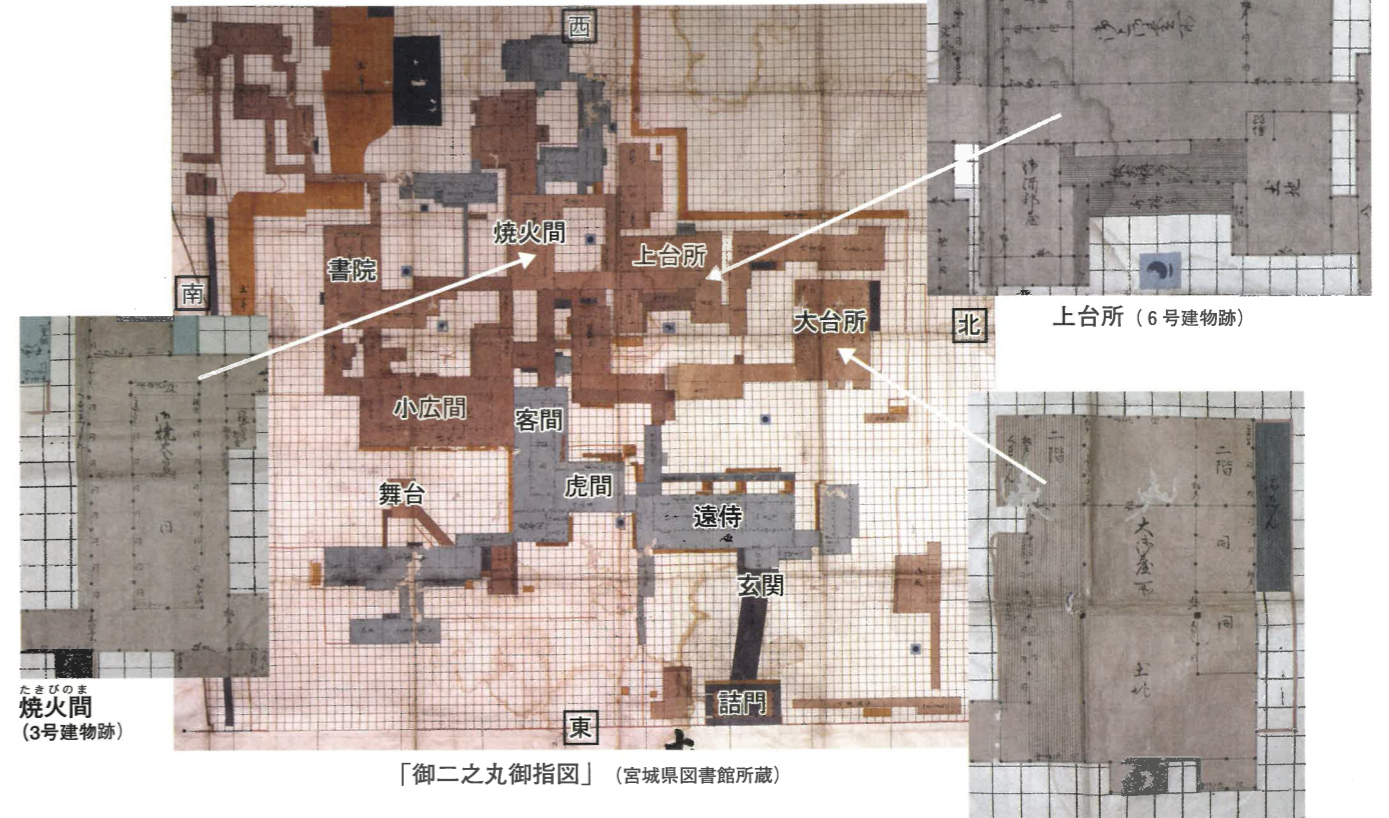


二の丸の城のその後

新たな城 仙台城二の丸

仙台城本丸が政務や日常生活に不便だったせいか、二代藩主忠宗は本丸の北側に二の丸を造りました。これ以後二の丸が城の中心となり、藩の行事のほとんどがここで行われました。

二の丸には政宗の死後に廃城となった若林城の多くの建物が解体・移築されました。「御二之丸御指図」は二の丸建物を描いた最も古い絵図で、若林城から移築されたと思われる台所など3棟の建物も描かれています。



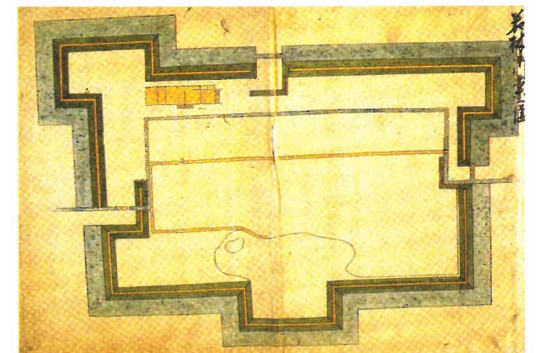
「御二之丸御指図」(宮城県図書館蔵)

これら3棟の建物はみな二の丸の表御殿となる重要な建物であり、文献や絵図の内容が発掘調査により確認された貴重な例です。

その後の城の姿

仙台城本丸の御殿は明治の初めに取り壊されました。一部残っていた大手門なども昭和20年の仙台空襲で焼失し、今は石垣や堀跡にかつての姿を残すのみです。

若林城は徳川幕府による支配の下、政宗は自分亡き後の藩の行く末を心配してか、遺言により城は廃され、後に藩の薬草園となりました。



御薬園となった若林城を描いた絵図(東北大学大学院工学研究科蔵)